

編集・発行：滋賀大学経済経営研究所  
〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1  
滋賀大学彦根キャンパス  
総合研究棟〈士魂商才館〉1 階  
2020 年 10 月 1 日発行  
<https://www.econ.shiga-u.ac.jp/ebrisk/>



企画展

# はるかなる手紙

— 滋賀大学所蔵フランスの貴重自筆書簡 —

2020. 1.7 (Tue) ➡ 2021. 4.30 (Fri)

Clément Colson 第1期

クレマン・コルソン

1月7日 火 — 4月30日 木

Léon Say 第2期

レオン・セー 2021年

10月1日 木 — 1月29日 金

François Guizot 第3期

フランソワ・ギゾー

2月1日 月 — 4月30日 金

※新型コロナウイルス感染症拡大防止等により、中止・延期・変更となる場合があります。



## 企画展

# はるかなる手紙

## ー滋賀大学所蔵フランスの貴重自筆書簡

第1期：Clément Colson クレマン・コルソン  
■▶ 1月7日（火）～4月30日（木）

✓ 第2期：Léon Say レオン・セー  
2021年  
■▶ 10月1日（木）～1月29日（金）

第3期：François Guizot フランソワ・ギゾー  
■▶ 2月1日（月）～4月30日（金）

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、第2期・第3期の会期が変更になりました。



## ごあいさつ

今回の展示では、滋賀大学が所蔵する、フランスの3人の歴史的人物の自筆書簡を3期にわたって紹介します。これらの書簡はいずれも、偶然のめぐり合わせで滋賀大学にやってきたものです。

第1期に展示するのは、経済学者コルソン（Clément Colson, 1853-1939）による1923年付の書簡2通です。コルソンは、学者としてだけでなく高級官僚としても華々しい活躍をした人です。

第2期に展示するのは、経済学者レオン・セー（Léon Say, 1826-1896）の1883年付の書簡です。セーもまた財務大臣を3度つとめ、日本銀行の設立にも大きな影響力を及ぼしました。

第3期に展示するのは、著名な歴史家で、首相としても名を馳せたギゾー（François Pierre Guillaume Guizot, 1787-1874）の1833年付の書簡です。

本展示では、書簡の内容だけでなく、歴史的背景や、舞台となったパリの雰囲気もお伝えし、皆さんをはるかなる場所と時間の旅に誘います。

2020年1月

監修：御崎 加代子（ミサキ カヨコ）

滋賀大学経済学部教授（専門分野はワルラスを中心とする経済学史、フランス経済思想史）

参考文献：

御崎 加代子（資料紹介）「滋賀大学図書館所蔵 Clément Colson(1853-1939) の書簡について」『彦根論叢』第380号、滋賀大学経済学会、2009、89-99.

御崎 加代子（資料紹介）「滋賀大学図書館所蔵 Léon Say から Alfred de Foville への書簡(1883)」『彦根論叢』第412号、滋賀大学経済学会、2017、68-71.

御崎 加代子（資料紹介）「滋賀大学図書館所蔵 François Guizot の自筆書簡（1833）について」『滋賀大学経済学部研究年報』Vol.25、滋賀大学経済学部、2018、123-126.

## 企画展関連年表

1787年 フランソワ・ギゾー生まれる。

1789年 フランス革命始まる。

1799年 ナポレオン・ボナパルトがクーデターを起こし、統領政府を樹立。

1804年 ナポレオンが皇帝の地位につき、第一帝政始まる。

1814年 ナポレオン退位し、エルバ島に流される。翌年ルイ18世が王位につく。

1826年 レオン・セー生まれる。

1830年 七月革命。オルレアン家ルイ＝フィリップが即位。七月王政が成立。

1832年 ギゾー公教育大臣に就任（37年まで）。

1833年 ギゾーからカトルメールへの書簡（第3期展示）

1848年 二月革命。ルイ＝フィリップ追放。ギゾー亡命。第二共和政成立。

1851年 ルイ＝ナポレオン・ボナパルトのクーデター。

1852年 ルイ＝ナポレオン・ボナパルトがナポレオン3世として皇帝の地位につく。  
第二帝政成立。翌年よりセーヌ県知事オスマンによる「パリ改造」始まる。

1853年 クレマン・コルソン生まれる。

1870年 普仏戦争始まる。翌年、フランス敗退し、ナポレオン3世失脚。

1871年 パリで民衆蜂起。パリ＝コミューン宣言。コミューン鎮圧後、第三共和政成立。

1872年 レオン・セー財務大臣に就任（73年まで）。

1874年 フランソワ・ギゾー死去。

1875年 レオン・セー財務大臣に就任（79年まで）。

1883年 レオン・セーからド・フォヴィルへの書簡（第2期展示）

1887年 エッフェル塔の建設が始まる。89年一般公開。

1889年 レオン・セー財務大臣に就任。

1896年 レオン・セー死去。

1897年 ドレフュス事件始まる。

1914年 第一次世界大戦勃発。ドイツと開戦。

1918年 休戦条約。

1919年 パリ講和会議。

1923年 クレマン・コルソン、 國務院の副院長に就任（28年まで）

1923年 コルソンからピネへの書簡（第1期展示）

1923年 ルール占領始まる。（25年まで）

1939年 クレマン・コルソン死去。

1939年 第二次世界大戦勃発。ドイツに宣戦布告。







La Liberté guidant le peuple ( 民衆を導く自由の女神 ) 1830 年 / Ferdinand Victor Eugène Delacroix / ルーヴル美術館蔵  
ドラクロワ (Ferdinand Victor Eugène Delacroix, 1798-1863) は、フランスの 19 世紀ロマン主義を代表する画家です。  
La Liberté guidant le peuple ( 民衆を導く自由の女神 ) は、1830 年に起きたフランス七月革命を主題に描かれました。  
本企画展「はるかなる手紙」の舞台は、1830 年代、1880 年代、1920 年代のパリです。



①



②



③



④

# 1870-80s Paris

- ①写真家ナダール (Nadar) が撮影したフランスの舞台女優サラ・ベルナール (Sarah Bernhardt, 1844-1923) 1887 年頃撮影
- ②Un bar aux Folies Bergère ( フォリー・ベルジェールのバー ) 1882 年 / Édouard Manet / コートールド・ギャラリー蔵
- ③1883 年当時の女性の髪形  
*Dictionnaire encyclopédique et biographique de l'industrie et des arts industriels*, par E.-O. Lami ; tome III/ Paris : Librairie des dictionnaires, 1881-1891 / 個人蔵
- ④銀製の食器 ( ナポレオン 3 世様式 ) フランス 19 世紀 / 個人蔵



第 1 期 : クレマン・コルソン (1853-1939)

クレマン・コルソンは、19 世紀末から 20 世紀にかけて、フランスで活躍したエンジニア・エコノミストの代表格である。「エンジニア・エコノミスト」とは、フランスの近代化の過程において公共事業にたずさわった高級官僚であり、職業上の必要性から経済理論の発展にも多大なる貢献をした。

コルソンは経済学者として、交通経済学の先駆けとして、またフランスで最初に国民所得の算定を行った人物として有名である。彼は経済学教育・普及においても活躍し、同時に官僚として輝かしいキャリアを築きあげた稀有な人物である。2007 年度に滋賀大学図書館が購入した、彼の代表作『経済学講義』(全 6 巻)のうちの第 1 巻『経済現象の一般的理論』(1907)の中に挟まれていた手書きの書簡 2 通は、コルソンが官僚としてのキャリアの最高峰、國務院の副院長を務めていた頃に書かれたものである。



第 2 期 : レオン・セー (1826-1896)

レオン・セーは、フランスの自由主義経済学者、実業家、政治家であり、「セー法則」で有名な経済学者 J.B. セー (Jean Baptiste Say, 1767-1832) の孫にあたる。レオン・セーは、フランスの財務大臣を 3 回務め (1872-73 年、1875-79 年、1889 年)、日本の明治政府ともゆかりのある人物として知られる。日本銀行の創設者である松方正義が 1870 年代ヨーロッパ滞在中に、当時の財務大臣レオン・セーから強い影響を受けたのである。

滋賀大学附属図書館は、レオン・セーの著書『フランスの財政—1881 年 12 月 15 日から 1882 年 12 月 20 日までの 1 年間の議論』を所蔵している。この本には、著者のレオン・セーが、有名な統計学者アルフレッド・ド・フォヴィル (Alfred de Foville, 1842-1913) に宛てた自筆書簡がそえられており、その内容から判断して、本書は、セーがド・フォヴィルに献呈した本であった可能性が高い。



第 3 期 : フランソワ・ギゾー (1787-1874)

ギゾーは、19 世紀前半に活躍したフランスの著名な政治家、歴史家である。

滋賀大学図書館は 2018 年 2 月に、ギゾーの代表作『ヨーロッパ文明史：ローマ帝国の崩壊からフランス革命まで』の英訳版 (1839) を購入した。その本には、1833 年 8 月 13 日付のギゾーの自筆書簡が添付されていた。

ギゾーはフランスの七月王政期、1832 年から 1837 年まで公教育大臣の職にあり、数々の教育改革に携わった。この書簡が書かれた約二か月前、1833 年 6 月 23 日には、有名な初等教育法案「ギゾー法」が成立している。この書簡も公教育省の便せんが使われ、肩書も「公教育大臣」となっている。書簡の内容は、神学部へのヘブライ語教育に関するものである。



# 「花の都パリ」と印象派の時代

パリの街が、いわゆる「花の都パリ」として知られる現在の姿をとりはじめるのは、第二帝政（1852-1870）の時代である。ナポレオン3世の任命によりセーヌ県知事の職についたオスマン（George-Eugène Haussmann, 1809-1891）が、帝政の強力な権力のもとで、「オスマン化 haussmannisation」と呼ばれる、大規模な都市改造を実施した。入り組んだ路地や古い建物が中心部から一掃され、幅の広い大通りが中心を貫き、下水道の整備も本格化した。

1870年代以降、第三共和政下でも改造は続行された。1862年から75年にかけて建設されたパリ・オペラ座（ガルニエ宮）は、「ナポレオン3世様式」と呼ばれる建物の典型的な例である。1887年には、エッフェル塔の建設も始まった。この時代に活躍を始めた印象派の画家たちの作品に、大改造後の整然としたパリの街並みを見出すことができる。



Rue de Paris, temps de pluie (パリの通り、雨の日) 1877年 / Gustave Caillebotte (ギュスターヴ・カイユボット) / シカゴ美術館蔵



- ① Napoléon III remettant au baron Haussmann le décret d'annexion des communes limitrophes le 16 février 1859 (1859年2月16日 オスマン男爵に隣接市町村併合令を手渡すナポレオン3世) 1860年 / Adolphe Yvon (アドルフ・イヴォン) / カルナヴァレ美術館蔵
- ②③現代のオペラ座 (ガルニエ宮)
- ④1862-75年建築 ナポレオン3世様式のオペラ座  
Dictionnaire encyclopédique et biographique de l'industrie et des arts industriels, par E.-O. Lami ; tome III / Paris : Librairie des dictionnaires, 1881-1891 / 個人蔵



## レオン・セー (1826-1896) の生涯

レオン・セー（Léon Say）は、1826年6月6日にパリに生まれた。祖父は著名な経済学者 J.B. セー（1767-1832）であり、セー家は有名な経済学者たちを輩出したことで知られる。経済学への情熱を受け継いだレオン・セーは、最初、銀行に入り、その後、銀行家のジェームス・ド・ロスチャイルドが社長を務めていた「北仏鉄道会社 Le Chemin de fer du Nord」の経営陣に加わった。同じころ、セーヌ県知事オスマンの財政運営を批判する論考で名声を得た。レオン・セーは、祖父と同じく、イギリスの経済学を信奉し、フランスの自由貿易政策を支持した。

1871年に国民議会の議員となると、直ちに国家財政に関する委員会の報告者に選ばれ、1896年までの議員の任期中、セーは、財務大臣を歴任した（1872-73, 1875-79, 1882）。財務大臣として、セーはその手腕をいかに発揮し、普仏戦争（1870-71）でフランスが負った巨額の賠償金支払いを完了した。

祖父と同様に英語が堪能だったレオン・セーは、1880年にはロンドン駐在のフランス大使も務めた。1880年から1882年までは上院の議長も務め、反社会主義的な政策主張を強めて行ったが、最終的には、政府が公共事業を助成する必要性を認識した。彼は、経済学に関する多くの著作を残し、『新経済学事典』（1891-92）の編集・公刊も指揮した。

1896年4月21日パリで死去。

L' ILLUSTRATION 誌 1896年4月25日号に掲載されたレオン・セーの肖像





|                      |
|----------------------|
| TITLE                |
| はるかなる手紙              |
| 滋賀大学所蔵フランスの貴重自筆書簡    |
| 1st. Clément Colson  |
| 2nd. Léon Say        |
| 3rd. François Guizot |

## 1883年2月27日付 書簡の背景

展示書簡は、滋賀大学附属図書館が所蔵する、レオン・セーの著書『フランスの財政― 1881年 12 月 15 日から 1882 年 12 月 20 日までの 1 年間の議論』（Les finances de la France : une année de discussion du 15 décembre 1881 au 20 décembre 1882, Paris : Guillaumin, 1883）に張り付けられているのを、監修者が発見したものである。

その書簡の内容から判断して、これは、著者のレオン・セーが、同時代の統計学者アルフレッド・ド・フォヴィル（Alfred de Foville, 1842-1913）に同書を献呈するさいに添えた書簡であることがわかった。書簡の文章からは、レオン・セーが、16才年下の著名な統計学者ド・フォヴィルに対して、敬意と親近の情を抱いていたことが伝わってくる。



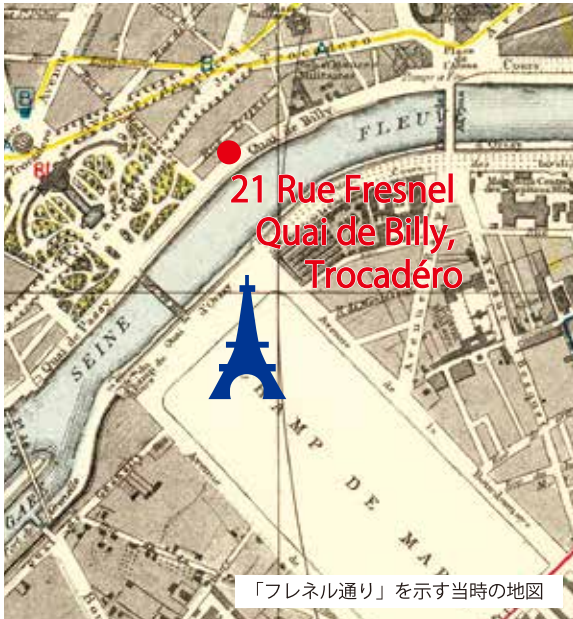
1880年にイギリスのVanity Fair誌に掲載されたレオン・セーの風刺画



ナポレオン・ジョセフ・シャルル・ポール・ボナパルトの肖像  
父の名を取ってナポレオン・ジェローム・ボナパルトとも呼ばれる

Napoléon Joseph Charles Paul Bonaparte  
（ナポレオン・ジョセフ・シャルル・ポール・ボナパルト）1860年  
/ Hippolyte Flandrin（イポリット・フランドラン）/ オルセー美術館蔵

## エッフェル塔の建設

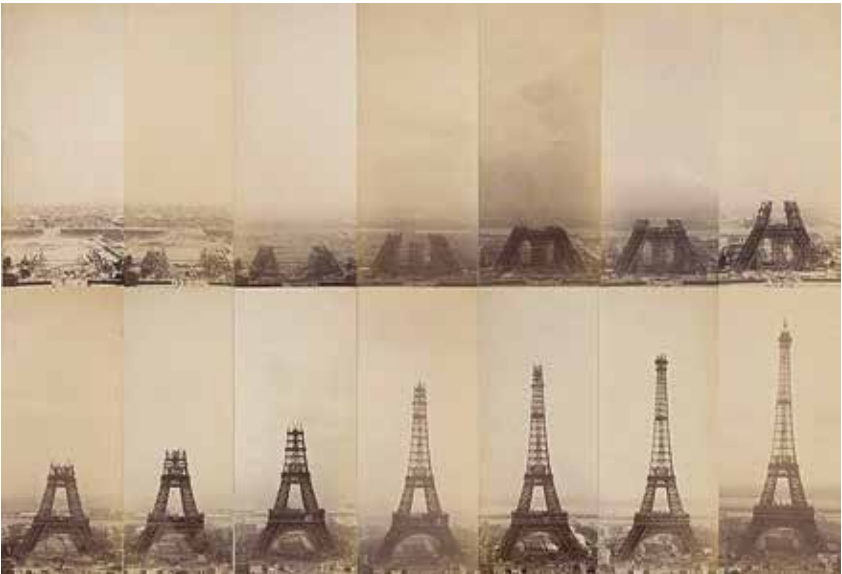


City of Paris. Letts's popular atlas. Letts, Son & Co. Limited, London. (1883)  
/ David Rumsey Historical Map Collection

## エッフェルとは？



展示書簡の便せんには、レオン・セーの自宅住所「フレネル通り 21 番地 ビリー河岸 トロカデロ（21 Rue Fresnel Quai de Billy, Trocadéro）」が印刷されている。書簡が書かれたのは1883年であるが、1887年から、セーヌ川をはさんだちょうど真向かいの場所で、エッフェル塔の建設が始まった。



エッフェル塔建設工事の様子（1887-1889年）/ Théophile Féau / オルセー美術館蔵

1889年3月に完成した「エッフェル塔」の名前は、設計者のエッフェル（Gustave Eiffel, 1832-1923）にちなんでつけられた。  
エッフェルは、フランスの構造エンジニアで、1867年に事務所を設立し、普仏戦争後、世界各地の橋、駅、大屋根構造などの設計を依頼され、鉄骨構造技術のパイオニアとなった。パリのボンマルシェ百貨店の鉄骨構造（1876）、ニューヨークの「自由の女神」の骨組み設計（1885）を成し遂げたのち、1889年のパリ万国博覧会のために高さ約300mのエッフェル塔を設計し、その名声を不滅のものにした。



エッフェルが発案した鉄骨構造を用いたボンマルシェ百貨店の中央階段とガラス屋根

Grand central staircase（壮大な中央階段）  
/ The illustration shows the central staircase and the glass roof above it, Le Bon Marché, Paris. 1892  
/ ブラウン・ユニバーシティ・サイエンス図書館蔵



